

西嶋八兵衛研究会 Final 記念講演実施報告

(兼プラスワン第 121 回例会)

建設部門 総合技術監理部門

加藤 均

KATO Hitoshi



1. はじめに

西嶋八兵衛（以下、八兵衛と呼ぶ。）は、江戸時代初期に、主君の藤堂高虎の命で当時生駒家が治める讃岐に赴任し、在籍した約 15 年間で数々の土木事業を行った人物です。当研究会は、その業績のわりに一般の方への認知度が低い八兵衛について調査研究を行う目的でプラスワン 20 周年（H20 年開催）の翌年、平成 21 年 4 月のプラスワン例会で設立されました。現在活動しているメンバーは 5 名で、途中コロナのため 4 年間の休止の後再開され、今年 5 月に開催されたプラスワン 30 周年を目標に 9 年余り継続し回数は 16 回を数えますが、今回内容的に区切りを迎えたことからファイナルとしました。また、八兵衛が満濃池再築のため地元矢原家を訪問してこの 8 月で丁度 400 年となることを記念して会場はまんのう町神野（かんの）公民館、プラスワンはもちろん一般の方も聴講できる公開で令和 8 年 8 月 22 日（土）に開催しましたので、以下にご報告します。

2. 研究会 Final の概要

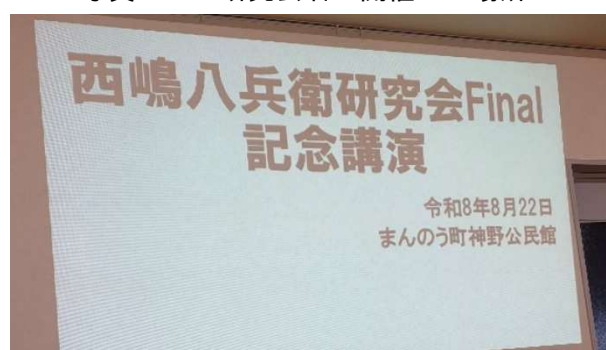
基調講演は、歴史地理専門家で香川地理学会副会長の木下晴一氏にお願いしました。会のメンバーの本條さんが定期的にうどん作りの交流会を行っていてそのうどん繋がりを実現しました。その後、会のメンバーによる講演と発表、満濃池・矢原邸跡（カリンの木）の現地見学を行いました。

参加者は、プラスワン会員 20 名、一般 8 名、講師の方を含め総勢 29 名でした。当日は最高気温 36 度まで上がり猛暑の中開催場所がまんのう町で高松市等から遠方にも関わらず沢山の方に参加して頂き、本当に感謝で一杯です。

写真－１ 満濃池にて



写真－２ 研究会名・開催日・場所



表－１ プログラム

時 間	行 事 内 容
9：30～	研究会開会
9：30～11：00	木下晴一氏による記念講演
11：00～11：10	休憩
11：10～12：10	丸山正氏発表（約 9 年間の研究結論） 香川県のアイデンティティにせまる
12：10～	以下はプラスワンの活動 弁当配布～以降、食事しながら聴講
12：10～12：30	加藤均氏発表（研究会の歩み）
12：30～13：10	本條忠應氏（「絵本」ができるまで） 高尾武司氏（讃岐のため池文化） 竹内克宜氏（興味を持ったままの事） 川田浩三氏（満濃池の紹介） ： オフザバー参加
13：10～13：40	満濃池へ移動、写真撮影
13：40～14：00	矢原邸の森で写真撮影、解散

３．木下晴一氏の講演

講演は「八兵衛の技術－江戸前期の土木技術との比較－」という演題です。木下講師は、香川県職員時代に埋蔵文化財等に関わる業務をされる傍ら、ため池などの灌漑を中心とした土地開発の歴史にご興味を持たれ研究されており、その関係で八兵衛に深い造詣をお持ちです。講演でも広範に所在する古文書等に対し労力を惜しまず資料収集されているとともに、緻密に分析をされその中から真実を追究しようとする真摯なお姿を随所に拝見し大変感服しました。

まず、旧漢字である“西嶋”に対し、常用漢字で子孫が使用している“西島”を使っていることから話を始め、寛永３年に八兵衛が讃岐に居たか居なかったかについて、年号、干支、年貢石高等の分析から“居なかった”のではないかと結論付けました。資料分析では誰が何のために何を書いたか徹底的に調べるのが大切だと話されました。

ため池の築造では、金比羅宮に奉納された国絵図に描かれた 12 のため池は八兵衛の関与が確認され、雨水を集める池では無く河川から承水路により水を貯めるなど徹底した水の有効利用が図られていることを指摘されました。

観音寺市の柞田川（くにたがわ）の新田開発では、河川沿いに下所悪田（げしょあくでん）と呼ばれる耕作に不向きな所を公儀が家を与えて住まわすエリアがあること、洪水対策として熊本県緑川と同様複数の遊水池があることなどを指摘されました。

香東川では、八兵衛が二股に分かれた河川を一本化したと言われていますが、一般には一本化は無かったという見解と有ったという見解に分かれ、これに対して東側の旧香東川について国絵図（1647 年、1838 年）には描かれているものの、高松藩領絵図（約 1800 年）には無く、明治時代の地籍図では林となっていることから、実態は川では無いいわゆる“枯れ川”で用水路の図には描かれない一方、大洪水の時のみ流れるのではないかと指摘されました。また奇



写真－7 聴講状況

跡的に手に入った香東川全図第4号(1878年)を見ると、東側の河川はなく本川は信玄堤のように外側にしっかりした堤防と内側にハの字の堤防が見られ、ハの字はじょうろのように水を円滑に流す役割があることも指摘されました。

4. 丸山さんの講演

研究会を代表して、丸山さんから、「西嶋八兵衛香川県アイデンティティにせまる」と題して講演されました。7回もの研究会の開催を経て本年4月に印刷を完了し、講演はこれまでの集大成として八兵衛に対する思い入れと尊敬に溢れたとても熱いものだったと思います。参加された方もその流れるようなストーリー性に引き込まれたのではないかと思います。

高松と丸亀の生みの親“生駒親正”から始まり、父が“洪水を塞ぐ(ふさぐ)”に対し“洪水を導く”考え方を持った中国黄河の治水の英雄“禹王”の考え方を八兵衛は踏襲しているのではと説明されました。

満濃池では、空海が築いたものは約30年で決壊した一方、八兵衛が築いたものは約220年持ったこと、この理由は余水吐の違いであること、そしてその状況を水道の洗面器で分かり易く説明されました。

銭形砂絵「寛永通宝」は、その2年前に完成した満濃池再興への感謝の気持ちをお賽銭として表現し、当時の遍路道から見渡せる場所に、夜間測量により大型の砂絵を描きお遍路文化を高めたのではと話されました。

5. 研究会メンバーの発表

昼からは研究会の活動に移り、ランチを食べながらメンバーが発表しました。

まず私加藤から、「研究会の歩み」と題して、研究会が9年余り続いた理由として、良いテーマ選定とメンバー、ランチを伴う楽しい雑談部分があったこと、16回開催した会の概要では、立ち上げ、本條さんと丸山さんの印刷、中締めの大きく4つのステップがあったこと、議論を



写真－8～9 丸山氏の講演



写真－10 加藤氏の司会・発表



写真－11 本條氏の発表



写真－12 高尾氏の発表



写真－13 竹内氏の発表



写真－14 川田氏の発表



5つの業績（ため池・香東川・新田開発の3つの従来説、栗林公園・寛永通宝の2つの新説）に整理したことなどを説明しました。研究会では主に運営を担当しました。

本條さんから、「絵本『西嶋八兵衛さんの挑戦』ができるまで」と題して、八兵衛は築城技術を基礎としつつ、川の締切りと河川流量に着目し、流域面積の小さなため池から次第に流域面積の大きいため池に挑戦したこと、絵本発刊に向けて、文芸社への応募、落選と発刊のオファー、著作権などをクリアして自費出版に至ったことを話されました。研究会ではいつも前向きで豊富な知識・経験や俯瞰的な視点によるご意見番的な役割を担って頂きました。

高尾さんから、「讃岐のため池文化」と題して、江戸時代の新田開発とため池の築造状況、上流から下流へ順番と時間を決めて配水する番水（ばんみず）や線香の長さで配水量を管理するなど独特の慣行水利権、水神祭や念仏踊りなどの伝統行事について話されました。研究会では、香川の水利やため池での豊富な知識・経験、ネットワークをもとにご意見を頂きました。

竹内さんから、「興味を持ったままの事」と題して、役割に注目し八兵衛の役職である普請奉行は、例えばため池の配分水量を政治判断する行政官と貯留可能水量を技術判断する技術官僚の両方ではないか、藤堂高虎は職人集団や築城技術を効果的に取り入れるプロジェクトマネジャーではないかと話されました。研究会では香東川ブラタモリ研究会（もう一つの研究会も兼任）での情報や独特でユニークな視点からご意見を頂きました。

オブザーバーで満濃池受益者の川田さんから、当初のプログラムには無いものの是非ということで、「満濃池の紹介」と題して満濃池の概要、今年7月に余水吐がオーバーフローする写真、元香川県知事の前川忠夫先生が香川大学時代に書かれた余水吐の水理模型実験に関する論文などを説明されました。いずれも貴重な写真や論文を熱く紹介頂き、有り難うございました。

写真－15 満濃池



6. 現地見学

日差しがとても強いなか本日のハイライトである満濃池で写真撮影の後、直ぐ下流の矢原邸跡にある空海が植えたカリンの木の二代目の木を背景に写真撮影を行い、皆で拍手をして研究会 Final を終えました。

7. おわりに

プラスワン恒例の懇親会は、場所を高松市内に移して 12 名が参加して打ち上げを行いました。参加された方からも研究会 Final は良かったと言って頂き、また研究会のメンバーも八兵衛について更に話を続けて高揚感一杯のまま当日を締めくくることが出来ました。

最初に研究会を立ち上げた時はまさか 9 年 4 ヶ月も続くとは思いませんでしたが、始めてみると生駒騒動などで八兵衛に関する資料が少ないことから謎の部分が多く研究に振れ幅があること、客臣として訪れた讃岐であっても戦略性と技術力を駆使してインフラ整備を行う魅力的な人物であることから研究会はいつも楽しく、全く時間の経過を感じませんでした。

最後になりますが、「八兵衛さん有り難う。研究会そしてプラスワン有り難う。」

写真－16 矢原邸跡（カリンの木）



写真－17 満濃池にて（西嶋八兵衛研究会）

